ごみ処理施設を見てみよう

市では、市民の皆さんにごみ処理について理解を深めてもらうために、8月4日、「ごみ処理とリサイクル状況をもっと知ってもらおうツアー」を開催しました。

施設見学やクイズなどでごみ処理などについて学習

市民約40人の皆さんが参加して、東部クリーンセンターのごみ処理施設や西部クリーンセンターの資源化施設を見学したり、DVD鑑賞やクイズ、ゲームをしたりして、ごみ処理やリサイクルの状況などについて学びました。

【東部クリーンセンター（大塔町）】

東部クリーンセンターは、日量200トンの焼却能力があり、環境に配慮した最新技術を備えた施設として、平成13年から稼動しています。また、十分な公害防止対策を施し、安全性や周辺の景観との調和にも配慮しています。

施設内では、ごみ焼却で得られた熱を利用し、蒸気タービンによる発電を行って、東部クリーンセンターで必要な電力をまかない、余った電力は電力会社に売電しています。

ごみピットにためられたごみの量にびっくり

東部クリーンセンターでは、中央制御室やごみクレーン操作室などを見学しました。

中央制御室は、人間の体でいえば頭脳にあたる場所で、クリーンセンターにあるすべての機器が正常に動いているか監視・操作をしています。

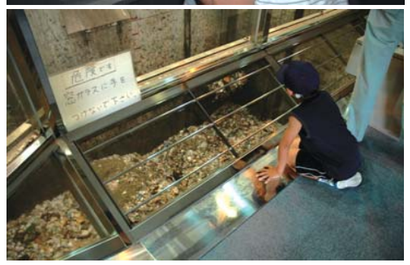
参加者は、実際にパソコンの前に座って、操作について職員から説明を受けました（写真左上）。

焼却炉・炉室では、監視窓から直接ごみが燃えている様子を観察することができました（写真左中）。

ごみクレーン操作室は、ごみをためておく「ごみピット」からクレーンでごみをつかんで焼却炉に入れる操作をする部屋です。ここでは、職員がクレーンを操作する様子を見学しました。

参加者は、ごみピットにためられた大量のごみを、ガラス越しに興味深くのぞき込んでいました（写真左下）。

研修室では、ごみ処理の流れなどについて、市が作成したDVDを鑑賞しました。



中央制御室を見学する参加者

缶やペットボトルの処理状況などを見学

西部クリーンセンター（下本山町、写真上）は、東部クリーンセンターと同様に市内のごみを処理する施設です。敷地内には、ごみを焼却した後の焼却灰などを埋め立てる最終処分場があるほか、収集した資源物を処理する資源化施設などがあります。

参加者は、最終処分場をバスの中から見学した後、資源化施設で缶やペットボトルが処理される様子を見学しました。

缶が処理される▶様子を見学する参加者

◀圧縮されて積まれたペットボトル

また、キャップを外さずに出されたペットボトルを使って、キャップ外し競争（写真上）をしました。

ペットボトルのキャップは、プラスチックでできた燃やせるごみですが、収集された中には外されないまま排出されたものがあります。

一つのキャップを外すのは簡単ですが、大量のキャップを外すのは大変な手間になることを、参加者はゲームを通して実感したようです。

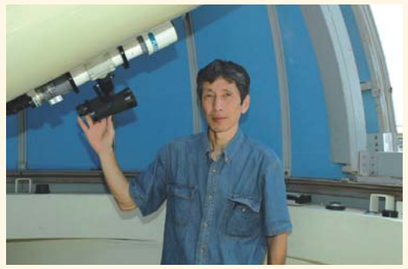
ごみ分別がリサイクルにつながることを実感

最後は、西部クリーンセンターの研修室で、ゲームやクイズの結果発表、記念品の贈呈などがありました。

小学生の引率で参加した、児童養護施設・清風園の樋口隆則さんは、「2段階ごみ有料化が始まり、やっと分別が身についてきた時期に参加したので、ごみ分別の徹底がリサイクルにつながることがよく分かり、ごみ分別の大切さを学びました」と感想を話しました。

【お尋ね】 市環境部施設課（☎0956・26・2116）

星空がきれいに見える環境を



NPO法人・長崎県天文協会会長
松本直弥（まつもとなおや）さん

星空観察を通して環境保全の啓発に取り組んでいる、長崎県天文協会会長・松本直弥さんにお話を聞きました。松本さんは、長年の環境保全活動が認められ、昨年、「星空の街・あおぞらの街」環境大臣賞を受賞しました（写真は星和台町の松本さん宅の天体観測室）。

星空から環境について考える

天文の観察・普及活動を始めてから25年以上が過ぎました。観測をしていて最近変化が感じられるのは、中国大陸からの黄砂の量が多くなってきていることです。

これは、環境問題と無関係ではなく、地球温暖化や砂漠化も原因だと考えられています。

星空観察では、大気が汚れていたり、地上に無駄な光が多かったりすれば星空はよく見えません。星空がきれいに見えることは、大気がきれいである証拠です。また、無駄な照明をなくし効率的な照明を普及させることは、省エネルギーにつながり、地球温暖化防止にも役立ちます。

わたしは、児童文化館の天体観望会や全国星空継続観察（スターウオッチング）などで講師を務めています。これまで、たくさんの子どもたちがこれらの観察会に参加しました。子どもたちをはじめ皆さんが天文に興味を持って、少しでも環境のことを考えてくれたらと思います。

宇宙を知ることで分かる「掛け替えのない地球」

宇宙を探求することで、「掛け替えのない地球」を実感できます。地球は、太陽系の中で生物が生息できる環境を得られた、まさに絶妙といえる位置に恵まれました。

環境問題には、これといった即効性のある対策はありません。結局、わたしたち一人一人ができることをやっていくほかはないと思います。

これからも、この「掛け替えのない地球」の環境を守る大切さを訴えていきたいと思います。